

自分の行動が周囲に変化をもたらし、壁を越える

隠

岐阜前高校には、全国から生徒が集まります。島外から来る生徒は意識が高く意欲的な子が多く、島出身の私の中には、常に「島外のやつには負けない」という思いがありました。このライバル意識が、良い意味で、自分を前へと駆り立てる原動力になっていったと思います。

入学当初は、驚きの連続でした。みんな生まれ育った環境も価値観もさまざま、高校の先生だけでなくコーディネーターや公営塾のスタッフといったいろいろな大人との関わりがあり、授業はとてもアクティブで、なんだかすごい世界に来てしまったなど、私を含めて島出身の生徒たちは、気後れして消極的になっていました。それが悔しくて、自分も一皮むけたくて、生徒会長に立候補しました。結果は落選でしたが、自分が積極的に行動することで周囲



法政大学現代福祉学部
福祉コミュニティ学科2年
島根県立隠岐前高校卒業

真野拓哉さん

にも良い影響があるのだということを感じ、一ツ壁を越えることができました。

それからは、選手に主体性を求める監督の下バレーボール部の主将を務めたり、東北の南三陸に一人でボランティアに行ったり、自分から飛び込んでいきました。今、大学ではゼミのリーダーを務めています。自分が主体になって動き、リーダーとなって仲間をまとめたという経験や高校での探究的な学びが大いに活きています。

振り返ってみると、学校の探究活動や講演で、公営塾のゼミで、部活で、地域での活動で、ボランティア活動で、本当にいろいろな人と出会い、たくさん話をした3年間で、世界はこんなに広いのだと、視界が開ける思いがしました。現在は、高校での探究活動をきっかけに興味をもったまちづくりについて学んでいます。将来は、幼い頃から憧れてきた島のかっこいい大人たちと一緒に働きたいと思っていますが、高校のスタッフに言われた「まだ決めなくていい。いっぱい悩めばいい」という言葉を胸に、今できることを精一杯やりたいと思います。

Message

「高校時代のこんな体験が私を変えた」

高校に入学してから何を思い、誰と出会い、どう考え行動してきたか。

そうした経験を通して、どのように自分は変わってきたか。

「未来を創る主体」となるまでの成長ストーリーを、

3人の卒業生に振り返ってもらいました。

高知リハビリテーション学院
言語療法学科2年
高知県立須崎高校卒業

鍋島 歩さん



学びや挑戦の機会を提供し、伴走してくれた顧問の先生

高

校では商業部に所属し、部活動に力を入れていました。特に印象に残っているのが、高知県安芸市で開催される「商い甲子園」大会への出場です。大会では、商品の仕入れから値入れ、損益計算、店舗レイアウト、販売まで、すべてを自分たちで行います。私は2年次と3年次にリーダーを務め、顧問の先生に協力していただきながら、チームをまとめていきました。その際に心がけたのが、全員に何かしらの役割を分担してもらうことと、困っている人がいたら進んで手伝うようにしたこととです。時には「自分が伝えたこと」と「相手に伝わったこと」が食い違ってしまうなど苦労もありましたが、メンバー全員で一つのことを成し遂げたときの達成感はとても大きなものでした。

さらに、3年生のときには群馬県高崎市で行われた同様の大会にも出場し、高知の特産品を販売しました。みんなで一生懸命に動いた結果、どの店舗よりも早く売り切れる人気店となり、素晴らしい思い出になりました。「こんな大会があるけど出てみる？」と機会を提供し、私たちの意見やアイデアを尊重しながら伴走してくださった顧問の先生には、とても感謝しています。私にとって先生は、心から信頼でき、なんでも相談できる存在です。

高校に入るまでの私は、自分に自信もたず、「(自分は)リーダーが務まるような



佐伯市役所地域振興部
大手前開発推進室 開館準備係 事務員
大分県立佐伯豊南高校卒業
おみと
後藤 臣飛さん

課題解決策を模索する大人たちの 熱い思いに触れ、意志が固まる

私 にとって高校生活は、まさに「人生のターニングポイント」でした。地域

に飛び出し、さまざまな人と出会い、多くの人と関わり合いながらプロジェクトに取り組んだことで、行動範囲や視野が広くなり、ものの考え方が自分でも驚くほどに変わりました。

きっかけは、2年生のときの探究活動。地元の活性化に取り組む「SHAN'S X HOUNAN ALL」プロジェクトの一環で市役所にインターンシップに行ったのですが、そこで市役所の方に誘われて、高校生主催のイベントを企画・運営することになったのです。試行錯誤しながら進めていく過程は苦しくも楽しく、開催後には大きな達成感がありました。翌年の課題研究では、イベントで地元の商店街を活性化す



ることに挑戦。市役所や地元の方々や協働し、空き店舗を使った高校生カフェや子ども向けのワークショップなどを開催しました。最初は先生と一緒に市役所を訪問していたのですが、市役所の方々と打ち合わせをくり返すうちに、「二人で行ってきてもいい？」と任せられるようになり、気づけば自分が創り手の中心になっていました。インターンシップをする前から市役所で働きたいという思いはあったのですが、その理由は「安定しているから」というものでした。しかし、地域に出て活動するなかで、地域が抱える課題を目の当たりにし、その課題に対して一生懸命に解決策を模索している大人たちの熱い思いに触れ、自分も地元で貢献したいという思いがどんどん強くなっていきました。私たち生徒の思いや意見を尊重しつつ、肝心なところではしっかりとサポートしてくださった先生方、こんな大人になりたいと憧れを抱かせてくれた市役所の職員の方々、そういった大人の存在が、私に一段上の視座をもたせ、成長させてくれたのだと思います。

こうして佐伯市役所への就職を決め、現在は、新しく開館する複合文化交流施設の準備に携わっています。精進して人として成長し、将来は佐伯市を背負っていきけるような人になりたい、若い自分たちがそうならなければならないと、自負しています。



器じゃない」と決め込んでいました。しかし、高校の部活でリーダーを経験したことで、「自分にもできる」と思えるようになり、今通っている学校でグループワークなどをする際にも、「私がリーダーやるよ」と率先して動いています。今後は、主体的に物事に取り組むことを通じて成長できたいという自分の体験を周囲の同じ世代の人たちにも伝え、誰かの背中を押せるような存在になりたいと思っています。

うちの学校の生徒も…

